

平成 31 年度使用高等学校  
(第 1 部)  
教科書編集趣意書  
家庭 (生活デザイン) 編

目次

	ページ
007 実教 生活デザイン .....	1

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
7 実教	生デ 301	生活デザイン 代表著作者 宮本 みち子

## 1 編修の基本方針

- ・本書は、人とのかかわり、社会とのかかわり、自立を基本におき、編集しました。人や社会との関係を考えること、生活をするうえでの衣食住の技術、消費者としての知識など、一人の生活者として必要な知識・技術を身につけられるような教材を選択しました。
- ・実践的な教材で「実際に行う」ことにより、生活を客観的・科学的に見る目を育てられるようにしました。
- ・歴史的・文化的背景により継承されている生活を知り、日本の伝統や他国の文化を尊重し、その上で、これからの生活を自分自身で切り開こうとする力を養うことができるような内容としました。

## 2 編集上の特色

- (1) 第1編を自分を見つめること、人とかかわって生きること、社会の一員として生きることの内容、第2編を食生活・衣生活・住生活の基本的な知識・技術を学べる内容としました。第3編では、生徒に消費者としての自覚を促すために、第1章として「消費行動を考える」をおき、消費者・生活者の視点から環境分野につなげ、第2章として「経済的に自立する」を配置し、経済のしくみや経済的自立について考えられるようにしました。
- (2) 必履修部分においては、各節(単元)の導入において学習の動機付けとなるようなワークを掲載し、学習への興味・関心が持てるよう配慮しました。
- (3) 考えたり、検証したりすることができる「Check Up」、実践的・体験的な学習としての「Activity」を設け、生徒が実際に行動することによって、学習を深め、知識や技術の定着がはかれるようにしました。
- (4) 選択部分については、学校の授業実態や生徒の興味関心に応じて選択できるよう、実践的な学習を豊富に盛りこみました。
- (5) 巻頭・巻末カラーページでは、本文との関連をはかり、生徒の興味や学習意欲を喚起させる内容を盛り込みました。また、生徒の学習経験に応じて学ぶことができるよう一部中学校の既習事項である内容も掲載しました。

### 3 内容の構成と特色

編・章	頁	配当 時数	内容・特色
1編 人とかがわって生きる 1章 自分らしい生き方と家族	20	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ライフステージの課題を生徒が自分のこととしてとらえられるように、「自分を見つめる」を冒頭でとりあげました。また、男女共同参画社会の動きなどにも目を向けられるようにしました。</li> <li>・家族・家庭の変化、現代の家族の課題などを学習し、家族のあり方についても考えられるようにしました。家族に関する法律は、基本的な内容をとりあげています。</li> <li>・現在の労働をとりまく状況や就業の意味、家庭や地域での仕事の重要性について考えられる記述をしています。</li> </ul>
1編・2章 子どもとがかわる	24	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の発達の知識が系統立てて学び取れるようにしました。</li> <li>・生命の誕生・妊娠などを取り上げ、生命を尊ぶ気持ちを身につけられるようにしました。</li> <li>・子育て支援のための法律や社会的支援を学び、社会全体で子どもを育てていくという視点を持てるようにしました。</li> </ul>
1編・3章 高齢者とがかわる	10	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢社会に関する資料を豊富に掲載し、高齢社会・高齢者の生活への理解が深められるようにしました。</li> </ul>
1編・4章 社会とがかわる	6	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉は、自分自身にかかわることがらであることが理解できるように本文の記述を工夫しました。また、ボランティア活動では、地域社会の一構成員であることを自覚できるような記述としました。</li> </ul>
1編・4章 子どもとふれあう(選択)	8	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとふれあうさまざまな実践学習を通して、子どもを理解できるようにしました。</li> </ul>
1編・5章 高齢者とのコミュニケーション(選択)	6	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の介助・介護実習や高齢者とふれあう実習を通して、高齢者とのコミュニケーションの重要性を理解できるような内容としました。</li> </ul>
2編 生活をつくる 1章 食生活をつくる	46	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養・食品の知識、調理などの知識・技術や、現代の食の課題を学習し、よりよい食生活をつくることができるようにしました。</li> <li>・献立作成、基本的な調理技術、食材の使い方など、総合的に食生活が学べるよう実習題材を選択しました。</li> </ul>
2編 2章 食生活のデザインと実践(選択)	12	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食文化の成り立ちを学び、郷土料理の実習を行うことなどにより、食の文化や自分たちの住む地域に関心を持ち、理解を深められるようにしました。</li> </ul>
2編・3章 衣生活をつくる	30	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の機能や衣服の素材、衣服の管理の知識を学ぶことにより、実際の衣生活に結び付けられるようにしました。</li> <li>・平面構成、立体構成の実習題材をとりあげ、実習を通して衣服の構成が理解できるようにしました。</li> </ul>
2編・4章 衣生活のデザインと実践(選択)	8	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・布を無駄なく使う題材として草履をとりあげました。また、生活の中での布を使う文化として、ふるしきの使い方の実践例をとりあげました。</li> </ul>
2編・5章 住生活をつくる	24	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風土と住まい、家族構成と住まいや平面計画、健康的で安全な住まいなどについて、理解を深められます。</li> </ul>
2編・6章 住生活のデザインと実践(選択)	8	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの文化、安全や環境に関する課題を学び、実践的な題材を通し、よりよく住まうことを考えられるようにしました。</li> </ul>
3編 消費者として自立する 1章 消費行動を考える	16	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済の進展、流通の変化や、販売・支払い方法の多様化・複雑化などに対応できる知識を習得できるようにしました。</li> <li>・消費生活の現状や課題、消費者問題など、主体的に問題を解決していくことができるような内容としました。</li> <li>・消費行動を見直す観点から 1章に環境を配置しました。持続可能な社会のための課題について学習を深められます。</li> </ul>
3編・2章 経済的に自立する	6	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家計と経済社会のしくみについて理解できるような記述とし、生徒が将来の経済計画の必要性を具体的に捉えられるよう、実践的な教材を取り上げ、興味・関心を持てるよう配慮しました。</li> </ul>
生活設計	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業選択、経済設計、家族や身近な人との暮らし、生活時間、地域や世界の関係を取りあげ、将来に向けての自分の生き方について考えられるようにしました。</li> </ul>
ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームプロジェクトや学校家庭クラブの意義や実践方法について学び、実践活動につなげていきます。</li> </ul>